

平和のためにできること ～戦争を知らない世代へ語り継ぐ～



8月23日(土)に町中央公民館にて、町図書館主催の「戦争のお話を語る会」が開催されました。講師として岐阜県遺族会語り部の佐竹一良さんと遺族会女性部長の佐竹安子さん、大垣空襲を語る会事務局の高木正一さんを迎え、戦争のない世界の実現に向け、戦争の記憶を未来へと残していくため、それぞれが戦争について体験したり伝え聞いたことを語りました。

世界ではまだ戦争がなくなったわけではありません。戦後から80年が経過し、戦禍を直接知る人は少なくなっていますが、戦争の惨禍に改めて目を向け、平和な世界の尊さを忘れないように、後世へと語り継いでいく必要性を参加者へ訴えかけました。

語り継いでいく薩摩義士の偉業



8月13日(水)に池辺公民館にて、令和7年度薩摩義士夏季慰霊法要が執り行われました。地域住民や遺族、関係団体などが参列し、江戸時代に難工事とされた「宝暦治水」を成し遂げた薩摩義士の功績をたたえ、追悼しました。「宝暦治水」とは、江戸時代に木曾三川流域の人々を水害の危機から救うため、薩摩藩が行った三川分流を目的とする治水工事であり、今年はその完工から270年の節目の年を迎えました。

町薩摩義士顕彰会の樋渡聡会長は追悼の詞の中で「薩摩義士の皆さまが成し遂げられた偉業に深く感謝するとともに、ご遺徳を後世に語り継いでまいります」と述べ、感謝の気持ちを語り継ぎ、繋いでいく意志を新たにしました。

ご長寿おめでとうございます



古川きみゑさん(押越)が100歳の誕生日を迎えられ、8月29日(金)に川地憲元町長から長寿のお祝い状とお祝い金が贈呈されました。

古川さんは、普段から早寝早起きをして家事や田んぼでの農作業をしていたことや、90歳頃まで自転車に乗っていたことなど、よく体を動かしていたことが長寿に繋がったのではないかと話してくれました。

避難所を少しでも快適に



9月2日(火)に養老町消防団長を務める伊藤勝則さんより、避難所などの設営時に固い床などに敷いて利用する災害備蓄マット15枚を寄附いただきました。

伊藤さんは「普段から消防団として消火活動や防災訓練への参加など、消防と防災について考える機会が多く、その中で避難所に備蓄されているマットの数が足りていないのではないかと考え、9月1日の防災の日に合わせて寄附しました。体育館などを避難所として利用する際に活用してください」と寄附の経緯を話しました。

いただいた災害備蓄マットを活用し、有事の際に少しでも快適に過ごせるような避難所の環境づくりを目指します。